

部

歌

古林先生作詞

一 まや六甲に抱かれて
ここ六甲台の水清し
ちぬの浦和をみおろして
シブキをあげる健男児

二 フリー、プレスト バタフライ
バック リレー ポロまでも
凌泳健児の意気高し
いざや競わん腕を撫し

三 ああなつかしの水泳部
六甲台のプール辺に
月見の宴で泳ぎやめ
くる夏まつていきりたつ

水 泳 部 歌

作詞 古 林 喜 楽
作曲 山 田 貴 彦



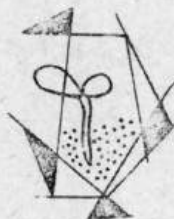
1. ま や 六 - 甲 - に い だ か れ て こ こ む こ が お か の
2. フ リ - ブ レ ス ト バ タ フ ラ イ バ ッ ク - リ レ -
3. あ あ な つ か し の す い え い ぶ ろ つ こ う だ い の -



み ず き よ し ち め の う ら わ を み お ろ し て し ぶ し ぶ き あ -
ポ ロ ま で も り よ う え い けん じ の い き た か し い ざ い ざ や き そ -
プ - ル ベ た つ き み の え ん で - お よ ぎ や め く る な く る な ま -



げ る け ん だ ん じ
わ ん う で を - ぶ し
- て い き い り た つ



この頃の私の泳ぎかた

古 林 喜 楽

うつとうしい長い梅雨も、やがて晴れて水泳天国のシーズン迫ると思えば、しんどいながらも辛禱がしやすい。何んといつても春から夏への季節は、そぞろ朗らかに明かるく浮きうきする。逆に九月から十月へかかつてくると、何とはなしに沈みがちになる。別に木の葉の散るのを見て、ものの哀れを知るといふような、感傷的なことでは、さらさら毛頭ないのではあるが、これもよくよく考えて見ると、どうやら来年の夏まで、当分の間水泳が出来ない、これではしばらく水と縁をたたなければならぬという淋しさの致すところであらう。

ところでこの頃、私の身辺のものたちは、君も還暦もすぎたのであるから、もういい加減に水泳はやめたらどうかという。いい年をして土左衛門にでもなつたら、世の恥ざらしてはいないか。それに君は普通の人とはちがつて、どうしても誤解されやすい。素面で泳いでいても、アルコールが入つていて心臓まひを起したのではないか、というようなことになるかねまじい。少なくともその年にもなれば、アルコールの入つたときだけは、水泳を絶対にやめろとアドバイスしてくれる。私のことを思つてくれるこの人たちの真情は勿論私とでもうれしい。しかし私としてはどうも、

素人には私の心辭えがわからぬように思えてならない。

そこで私は、せめて私の気持ちを理解して頂ける漫泳会の各位に、私の水泳法を披露して、忌憚のない批判を乞いたい。なにぶん私は還暦もすぎたので、いくら若い気でもやせがまんを張つても、身体の方がいうことをきかない。そこでこの頃はスピードにこだわらないようにし、もつとゆつくりゆつくりと呪文を口で唱えながら、クロールの文字通りに、水面をはつてゆく。ビールが相当入つているようなときには、岸辺でしばし、海水を手にかけて肩にかけ腹にかけ、水温と体温との調節をはかる。やがて水をかぶつてもヒヤツとつめたく感じないようになつてから、おもむろに泳ぎ出すのである。沖で船からとび込むときは、まづ煙草の吹いながら海面にすて、その流れゆくのをみつめて、水流の速度をはかる。流れの速さをみきわめてから、それが相当の速さであれば、流れに逆らつて泳ぐ。又特につめたい水のようにであれば、跳びこまないで、船側をはい下り、足から徐々にひやして、体温と水温とのアンバランスを調節し、それからスピードをぬいてゆつくり泳ぐのである。ここまで用意周到に工夫をこらして苦心をしてゐるのに、周辺のものが私にゴチャゴチャというのは、結局一般大衆に、水泳というものに対する理解が、案外欠けているのではなからうか。

この頃私はときどき思う。私たちと同じような年かつこうもの

210 328 6728
が、それ高血圧だのそれ糖尿だの、それ喘息だのそれ何だのと身体の不調を訴える。右をみても左をみても、半病人のようなものばかりである。私一人が、医者と薬に今にいたるも縁がない。なんだかつきあいが悪いように思うことさえある。これも一つは若いころ、水泳で鍛えたおかげだとは思うけれども、これからさきに万一私自身も、身体の調子がおかしくなるようなことになつたら、淡路かどこかの海辺に居をかまえ、朝・昼・夕と日に三度泳いで健康を回復したいと思つている。

パンちゃんのこと

水泳部々長

田 口 寛 治

私が雪国の中学校の水泳部で泳いでいたころ、みなから「パンちゃん」と呼ばれる上級生がいた。後から考えてみると、新入生の私を水泳部に勧誘してきたおそろしい上級生の一団の中にもパンちゃんはいた。話しかけられたおぼえもある。しかし、何をいわれたのか、はげしくドモるパンちゃんのコトバラしいものからは理解できなかつた。学年がちがうからよくわからないが、パンちゃんは学校の成績は超劣等生だつたようである。プール外では、

みんなのいいオモチャだつた。しかし、いつたんプール・サイドに立つと、その威風は部員全部を圧した。「さあ行こうデ」という彼の声に、一同、親ペンギンに従う子どもたちのように従順だつた。文字通り逆三角形の見事な身体が、水の中へおどり込むと、私など息をのんで見つめたものである。あざやかに水に乗つてペンギンはイルカに変つていた。

私はあらゆる運動の中で、水泳のフォームほどむずかしいものはないと思つている。一定の理想のフォームがあつて、それに近づけば近づくほどいいといえるようなものではないようである。

イルカにはイルカの泳ぎがあり、マンボウにはマンボウの泳ぎが、タコにはタコの泳ぎがあるように、大気中とちがつて水圧をくぐつて進むには、それぞれの身体に適したフォームが必要らしい。

しかし、パンちゃんだけは、他人の泳ぎにきびしかつた。そういうときだけ、パンちゃんのコトバは比較的なめらかに口からはどぼしるようだつた。しかもパンちゃんの助言の効果は実際にだれのタイムにもあらわれた。パンちゃんには、さまざまな泳ぎ、さまざまなフォームの中にも、泳ぎそのものの「論理」が見えるらしいのである。「論理」にはずれた泳ぎを見ると、自分の身体のどこかがムズムズするらしいのである。

その中学の水泳部生活はわずか一年間で、私は父の転勤とともに転校してしまつた。しかし、その後の水泳生活で、私は泳ぎな

がら、しばしばパンちゃんを思い出した。「パンちゃんに見てほしいなあ」とも思った。「パンちゃんは楽しそうだったなあ」とも思った。

その後の消息では、パンちゃんは戦死したそうである。どんな死に方をしたのかわからないが、パンちゃんだったら、死にヒンしていても、そつとかかえて水の中に入れてやつたら、二、三度もだえた後は、スーッと泳ぎ出すような気がする。ほんの子どもだった私の目、私の頭はパンちゃんを超人間的なものにまでしていたようである。

昨年から、また二十年ぶりで水泳部との縁ができた。神大の水泳部には、もちろん、プール外では人語もロクにしやべれないような超劣等生パンちゃんはいない。気がいのようにプール・サイドからどなっているひともない。しかし、私はさまざま泳ぎを見ながら「パンちゃんに見てほしいなあ」と心中ひそかに思うのである。



草場君のこと

学一 山田常雄

三商大の水泳大会は、私共が入学した年に始つたので、丁度今年で三十三年回になる。第一回は東京で、第二回は大阪で夫々当番校の所在地で行い、各当番校が優勝した。第三回はどうしても神戸が優勝しなければならぬカド番に追いせられた。私もキヤプテンとして責任も感じ、いささかあせり気味でもあつた。しかし既成選手の練習強化だけでは到底間に合わないもので、どうしても新しい良い選手を迎えなければならぬと考えて、私は母校である長崎高商へ入学の勧誘に出張した。その結果、岡君（現在高島重次郎君）と草場君の二人が承諾してくれたが、草場君には条件がついていた。同君は母子二人で経済的にもあまり豊かではなく従つて母堂は、草場君の就職を強く望んでいられるので、母堂が承諾されれば神戸を受けてもよいというのであつた。私は帰途、大牟田に下車し、草場君の母堂にお目にかかるため訪れた。始めはなかなか承諾されなかつたのであるが、私のねばりに根負けされたのか、それ程言われるのなら、本人の希望もあることだから大学へやろうと承諾された。岡君も草場君も成績は優秀であつたから試験は無論パスし、四月から新部員として練習を開始した。二人共神戸の最も強い中長距離であつた。岡君は男もほれば

れするような、立派な体格の持主であつたが、草場君はどちらかといへばやせ型であつた。草場君は勉学にも熱心だつたが、それ以上に水泳の練習は強烈だつた。正規の練習の外、早朝・夜間にも千、二千とロングを引いた。私は草場君の体力から見て少し無理ではあるまいかと思つたので注意をしたことがある。

さて、その夏の三商大は神戸が当番校となつて、甲子園プールで開かれ、御家芸のプレストは勿論、フリーの短、中距離にも意外の好成績を納めて優勝した。草場君の功績も大きかつた。

やがて休暇に入り、部員は夫々帰郷明けには関西インターに備えて合宿練習することになつた。いつも几帳面な草場君が顔を見せない。しばらくして手紙がきた。少し身体の調子が悪いので合宿には参加出来ないとの事であつた。その内に元氣な姿を見せるだろうという事は誰も疑わなかつた。所が一月経ち二月経つて前期の試験が終つても草場君は顔を見せなかつた。そうして、上筒井の街路詞がそろそろ黄葉しかかつた頃であつた。九州から突然草場君の赴報が届いた。私はドキンとした。私が無理に神戸へ連れて来なければこんな事にならなかつたのだ。同君にも申訳ないし、同君の母堂には全く合はず顔がなかつた。未だに、水泳のシーズンが終る頃になると、その時の草場君や草場君の母堂の事を思つて胸がいたむ。

山下虎蔵先輩の思出

学2 石井義章

本年三月、雑誌「凌霄」のページをくつて行くうち「山下虎蔵君近く」の文字を見出し思はず自分の目を疑つた。と云うのは一昨年の秋の月見の宴で久し振りに先輩がブルサイドにお見えになり、その元氣なお姿と昔と少しも変らぬ慈父の如き温顔を目のあたりにしたばかりだからである。その先輩が突然なくなられた。私は記事を読んでも尚、信じられない様な気持であつた。

先輩には凌泳会の長老として種々お世話になつたが、その内でも特に忘れ得ない思出がある。それは

昭和二十六年三月、吾々が学生生活最後のシーメンを前にして、水泳部の部費獲得の為或る音楽会を企画した。当時各運動部共部費獲得の為ダンスパーティー等を開催する事が盛に行はれて居た。偶々キヤブテンの沢川が音楽に造詣深かつたせいもあつたと思つ

が、（私）ダンスパーティーよりも健全であり、又音楽普及の一助にもとの意気込みもあつて音楽会をやろうと云う事になつた。それも既成の音楽家を呼んで来ての音楽会は面白くない。県下の学校、職域、団体を兼ねて大音楽会をやろうと云う事になつた。

私の手許に当時の趣意書の一部が残つて居るので転記させて頂くと。

趣 意 書

戦時中閉されて居た純粹音楽への欲求の解放と共に近年音楽界では所謂旧人の復活が顕著であります。稍々マンネリズムに陥つた傾向があります。更に税の改正に伴い音楽企画も成立せず音楽愛好者の集合は極度に抑制され最近では残念乍純粹音楽に対する一般聴衆の関心が薄いで来た感があり其処には商業的営利演奏会の独善的空転あるのみであります。此処に神戸経済大学凌泳会音楽愛好会は将来の音楽界を基礎付けるアマチュアの支持によつて音楽愛好者が挙げて一堂に会し、市民の音楽熱を高めこれを推進力として音楽水準の高揚を目指したいと存じます。

就きましては以上の目的達成の爲貴社の絶大なる御援助を切に御願ひ申し上げます。

細 目

- 一、名 称 第一回兵庫県綜合音楽大発表会
- 一、主 催 神戸経済大学凌泳会音楽愛好会
- 一、日 時 昭和廿六年五月十九日(土)
- 一、会 場 神戸高等学校
- 一、種 目 器音、独奏、合奏
声音、独唱、合唱

- 一、出演者 県下高等学校、各種団体並個人
- 一、入場料 二十円

以 上

昭和廿六年四月三日

殿

神戸経済大学凌泳会代表

山下 虎 蔵

小山 賢之助

神戸経済大学凌泳会在学生代表

浜川 広 海

多くの困難は予想されたが、とにかくこう云う事で、三月の春休みを利用しその準備を始めた。凌泳会代表として山下、小山両先輩のお名前をお借りし、殊に当時大阪商船神戸支店長をしておられた山下先輩には特に吾々の準備連絡場所として商船ビル内の一室を提供頂いた。部員一同毎日そこに詰めて各学校団体、官公署等を手分けして出演或は後援を依頼して回つた。

処が計画が大きすぎたのか、又、学生の身で世間を知らなかつたのか、部員全員の努力にもかかわらず思う様に進まない。その内水泳部内部から批判の声さえ出る様になり、遂には主要部員の中に退部の動きさえ出て来た。この間の経緯は私の記憶も薄れか

けているし、誤解があつてもいけないのでふれない事にするが、とにかくこの企画の最終目的は水泳部の發展の爲なのに、その水泳部が崩壊したのでは何にもならない。結局中止せざるを得ぬ事になつた。

しかし各方面に依頼を出し既に出演或は後援の承諾を頂いている所もあるのでそれらに断りに行かねばならぬ。立派な趣旨を上げて説得しやつと承諾を得た先へ急に止めましたとお断りやらお詫びやら、それも中止の真相は話せないと云うので、まだ肌寒い頃だつたが冷汗かき乍回つたものだ。しかしそれらはまだいいにしても一番困却したのは浸泳会代表としてお名借を借り事務所迄提供頂いた山下先輩に対してどう報告しお詫びするかである。浜川キヤブテンはこんな事態になつてどの面さげて先輩の前に出られるか、と云う訳でその大役が私と山本の上に回つて来た。二人はこの上は事の真相をお話してお許しを乞うより仕方がないと覚悟を決め、支店長室へ入つて行つた。

何をどう説明したか、とにかく話し終つて首うなだれて居る吾々の耳に意外にも先輩のやさしい暖い言葉が聞えて来た。

「元氣を出せ、そんなに思いつめるな、結果は失敗に終つたかもしれないぬが君らが水泳部の爲を思つてやつた事は分つている。責めよう等とは思はない。目的が正しければその結果は問わない。むしろ結果を恐れて正しいと信じる事を実行する勇氣を失う事が

いけない事だ。今後社会に出れば、こんな事はいくらでもあるだらう。今度の事は君らにとつても良い経験になつたと思う。今後もし正しいと思う事は信念を以て実行する様に」

この言葉を聞いて今迄張詰めて居た氣持が一時にゆるんだのか、その大きな温い氣持に打たれて二人共思はず涙を流して泣いた。

今でもあの時の先輩の言葉がはつきり耳に聞える。そして前記の趣意書を見る度にあの頃の苦しくも又楽しかつた色々の事が昨日の事の様に思い出される。

卒業後元盛が大坂商船を退かれた事等聞いてはいたが一昨年十年振りにはブルサイドでお目にかかりその元氣な御様子をお慶び申し上げたばかりなのに今その訃報を聞く

悲しみとさみしさのうちに偉大なる先輩をしのびつつ拙文をいたしました。

山下虎威先輩の御冥福をお祈り申し上げます。

以上



凌泳会総会に思う

新9 野田浩志

新緑の青葉の萌ゆる頃、例年六甲台で凌泳会総会が開催され、木の葉が紅色を帯びる秋には月見の宴が待っている。ごく決りきつたことながら、現役諸君は今シーズンの目標を樹て、若き情熱を水に傾けて記録に挑む努力を重ね、秘かに「月見の宴」で誇らしく成果の報告出来ることを期している。

私は、総会に試合に出席するたび、彼等の姿が美しく尊いものと思われるばかりでなく、彼等に接することによって、忘れかけつゝあるものが甦えつてくるのを覚える。

又彼等がより立派な水泳部を築き、優れた部員に成長してくれることを願い、競技をやるからには勝つべきことを願い、我々の時代になし得なかつたことを彼等によつて実現してもらいたいと願い、そのためには叱り飛ばすこともある。或は、久しく話る機会を持ち得なかつた先輩後輩諸氏に再会して昔話に花を咲かせたいと思う。

この様なことを、凌泳人の誰もがお考えのことであるのに、何故に総会、試合等への出席者が少ないのであろうか。(地理的な事情は止むを得ないとしても……)

「総会の通知が来たけれども、現役の者を誰れも知らないし、さりとて、同時代に泳いだ連中も出席するかどうか分らないので出席したところで……」ということ、欠席されるのが多いのではないかと思うが邪推だろうか。

凌泳会の意義を再発見し更に発展せしめるために、思いを新たにされんことを望むものであります。

こゝに私の私案を申し述べさせて頂きますと

1. 各地区で凌泳会支部を結成し、連絡及び親睦の機関とする。
2. 年に一度全国大会を開催する。

(これは現在の凌泳会総会とは別のものとし開催場所は持廻りとする)

以上のような簡単なものですが、凌泳会の所期の目的に近づく一歩だと思うのですが如何でしょうか。

思い出す事

新11 丸山卓也

いよいよ我々のシーズンが開幕となり、又楽しみが一つ増え頃となりました。在学中は、古林先生、山田先生、諸先輩の皆様方には一方ならぬお世話になり誠に有難く厚く感謝しております。

紙上をお借りして厚く御礼申上ます。又現役の諸君とは貴重な青春の月日を苦しい事も多かつたが、仲よく練習に励めた事は何よりも尊く、有難い事だつたと感謝しております。今後共尚一層の細指導をお願申上ます。私は今、姫路市の製鋼工場で元気に現場で働いています。工場全体がまるで煙とごう音に包まれたような感じですが、四年間につちかわれた神大水泳部精神のおかげで、まるでそんな事に関係なく仕事にフアイトを燃やしています。

在学中にはしたくても十二分に出来なかつた学問をやるうかと思つてはいるのですが、荒井が「しなれんことをするもんやない」と言いそうなのでこの話はやめます。窪田が工業専門学校の教授になる時節に僕も負けずにやるうと思つています。学生時代に真剣に考えた事といえは「三分を切るにはどうすればよいか」「ポロにおける絶対的な攻撃法はないか」とか、いつも水泳の事ばかりかぬであつたようですが、ポロのフォーメーションで一息ついた時考える事は食べ物の事ばかりでした。今日は帰りに「ぜんざいを食べようか」「三ノ宮で何か安くておいしいものはなかつたか」とか、或はこれまでに食べた印象に残つている物を思い浮べては、次のフォーメーションの支えとしたものです。きつと今日も現役の諸君もこう考えては冷たい水にとび込んでいる事でしよう。

さて、水泳部の本来あるべき道が最近少しぼやけてきたのではないかと考えないことはありません。いつか酒井先輩が云われた

ように、「上は下を護かく指導し、下は上を尊まいしたう」事が基本であると思ひます。この基本方針の下に部員一同が一致団結して、活気ある水泳部にする事、個々の部員については、立派なスポーツマンを目指して努力される事を祈つています。それから現役の諸君に一つ「謙虚」という事を知つてもらいたい。ほとんどの人は十分身につけられているから心配ないが、特に新入部員の人に分つてもらいたい。私を知るかぎり、チームの主メンバ―として立派な足跡を残しておられる先輩の中に例外なくこの「謙虚」を見出す事が出来る。勿論この「謙虚」の裏に「自信」と「驕氣」がある事も合せて覚えてほしい。諸君が記録の低迷に悩むとき、この語を一度頭に浮べて下さい。自分にはこの中どの一つをも欠かかしてはいないかを考えてみて下さい。今シーズンも部員一人一人が能力を最大限に發揮される時のチームは当然強くなる。昨シーズンの関西水泳リーグで対立命戦では惜敗したけれど、あの時は選手一人一人がその能力を一杯に出して戦つたと思う。スコアが接近していたし、後半になつてウチが追上げただけにとても残念であつたが、あのリーグ一番の好試合となつたと思つています。神戸の水泳があそこまで立命と戦うとはウチの者以外はあまり考えていなかったが、我々選手は立命を破つて全日本学生選手権に出場しようと思つていただけに、あの敗北は残念でならなかつた。昨シーズン三商大戦の競泳の敗北と共に痛恨の試

凌泳会の部会計報告

昭和38年度予算案

収入	前年度繰越金	1,200
	凌泳会費	200,000
	会合費	30,000
	計	231,200

支出	凌泳発行費	20,000
	水泳部援助金	152,000
	通信費	13,000
	交通費	10,000
	印刷費	600
	会合費	30,000
	雑費	5,600
	計	231,200

昭和37年度収支決算

収入	前年度繰越金	1,825
	本年度会費	179,000
	会合費	32,600
	計	213,425

支出	凌泳発行費	17,660
	水泳部援助金	117,000
	通信費	13,635
	交通費	9,785
	印刷費	645
	雑費	9,970
	会合費	43,530
	次期繰越金	1,200
	計	213,425

水泳部の部会計報告

昭和38年度予算案

収入	前年度繰越金	7,424
	凌泳会援助金	152,000
	部費	300,000
	育友会援助金	26,000
	会合費	50,000
	雑収入	20,000
	計	555,424

支出	水連加盟費	2,500
	試合合費	60,000
	試合宿費	362,000
	交通通信費	8,000
	会合費	55,000
	設備費	32,000
	記念品	7,500
	燃料	10,000
	雑費	10,424
	計	555,424

昭和37年度収支決算

収入	前年度繰越金	14,600
	凌泳会援助金	117,000
	部費	330,100
	育友会援助金	26,600
	会合費	45,050
	風呂資金繰入	22,500
	雑収入	19,201
	計	575,051

支出	水連加盟費	2,400
	試合合費	46,388
	試合宿費	50,526
	交通通信費	392,504
	会合費	7,740
	設備費	3,201
	設備費	32,190
	医療費	8,325
	雑費	8,750
	記念品	6,643
	燃料	8,960
	次期繰越金	7,424
	計	575,051

合であつた。今シーズンこそ昨年のかたきを討つて欲しい。諸君

の活躍する試合を楽しみにしています。

部の現況

B 12 主将 武政 英 幸

四月中旬に草津室内プールで合宿したこれを皮切りに、その後姫路合宿を経て、今年も緒戦の京阪神三大学戦を間近く控える頃となりました。昨シーズン当初に、先輩各位の御尽力で完成しました風呂を活用して、競泳に水球にと全員元気に練習を続けます。

水球の方から現状をお伝えしましょう。まずFWは、昨年来のレギュラーとして、梶(4)、武政(4)がいます。これに安茂(4)が一枚加わり、石原(3)、小越(2)が位置を占めそうです。

Backsには、鈴木(4)、前田(3)の経験者を中心にして、山本(4)、丸山(3)が追っています。

KEEPERとして、清水(4)、山口(3)が練習していますが、試合の経験がないため、今後の精進次第にかかっています。

ついで競泳の方ですが、フリー陣では、昨年同様エース的存在がなく、梶(4)、鈴木(4)、武政(4)、石原(3)、小越(2)、樋口(2)らがいずれも十三分前後で、いささか心もとない限りです。

バタフライには、安茂(4)、武政(4)に、新人の阿部(1)がいますが、いずれもまだ自己の調子をとり戻していません。

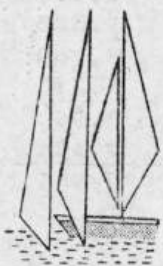
フリー陣、バタフライ陣の低迷に較べて、バックとプレストはかなりやりそうな気配です。まずプレストには、昨シーズン末にバタフライより転向した安茂(4)と、阿部(1)がいて、プレスト王国を乗くのも夢ではなさそうです。

ついでバックには、前田(3)、木下(2)に新人の高市(1)が加わって三人で競り合っています。

総じて今年の出来不出来は、フリー陣の奮起如何にかかっている感じです。

今年の目標として、水球部門では、関西学生水球リーグ戦に優勝して全日インカレに出場すること、競泳部門では、旧三商大戦での王座を奪還すること、においています。なかでも「全日インカレへの参加」は、酒井主将以来の夢でありますので、是非共やり遂げるべく、練習の時の相言葉にしています。先輩各位の御声援をお願いします。

練習の方は、昨年同様、平日は一時半より、日曜は一時から、六甲台プールで行っています。お誘い合せの上、御来台下さい。



38

「姫路合宿始末記」

T 12 山本 忠比古

神戸大学もジュニア課程が鶴甲山に統合され、姫路合宿も今年が最後となる訳で、姫路プールで二シーズンを泳いだ自分には特に感慨深い合宿となった。

姫路合宿とは、新入生歓迎コンバと六甲一姫路の親睦をはかることを目的とした、合同練習という形式で始まったものが、私が二年の時から厭めしい「合宿」と云う名前が付けられたのである。最後の姫路での練習を終った今、過去四回の練習の一コマーママが全て楽しい想出となつて浮んで来る。

この合宿の名物は雨で実に四年間降り続いた。

六甲の上級生に可愛がられようという新入部員の頃、恨めし気に暗い空を眺め、おテント様を羨慕しながら朝から死ぬ思いで泳いだものだ。

二年生から聞いていた「六甲台の優しいお兄さん」も期待を裏切つて、六甲の水泳部は裸で剣道をするという印象を幼な心に刻み込んだ者も少くはあるまい。

二年生になると新しく合宿と云う形式で本格的に鍛えられ各人に制限タイムが課せられ制限をオーバーした者には、再レース、

再々レースを強制され、私も必ず参加させられたものである。

〃 ALL MEN 八百米 GO〃

〃何卒 制限を切れませう様に……

〃百 ソノ調子〃

〃あゝ、うれしいねえ、足も腕も軽いワイ。

〃飛ばしてBESTを狙つてやれ。〃

〃二百 イイゾ〃

〃当然〃当然〃 制限タイム?

〃軽い気持。楽々

〃こんな時には歌でも歌つて泳ぐに限る。〃

〃四百 隣ニツイテ行ケ〃

〃はゝう、彼も仲々頑張るじやないか。

〃生意気に俺様を抜こうつたつて……

〃アリヤ こいつは手強いぞ。〃

〃六百 コラ〃 何ヲシトルカツ〃

〃畜生、俺だつて一生懸命泳いでるんだ。

〃隣は? 人の顔に尻を向けて失礼な。

〃色のパンツなんていやな奴だよ。〃

〃LAST 飛バセ 危ナイゾ〃

〃ヒイ! こいつは一大事。逃げ、逃げ。

〃BEATもCATCHも効かないや。

FORM がバラバラだ。I 〃 GOOL 〃

制限タイムは決して軽いものでなく、悪循環〃と云う言葉の意味を再認識し、以後リバイバルが慢性化し、一次、二次、三次合宿と、この年の自分は部内で最長距離泳いだと自認している。

三年目には、自分も所謂「六甲台のお兄さん方」の仲間入りしての合宿参加で、新入生相手に、コワイ顔をする番になり姫路の諸君も、私が一年に経験したと同じ気持ちで恨めしく思つた事であらう。

今年の合宿は例年より日程も長く、姫路では無視されがちな水球の基本練習が、ジュニア生を対象に取入れられ、多数の先輩方の御指導もあり、最後に相応しい合宿となつた。

姫路合宿の任巻は、練習後のコンバにつきる。各々、自分を中心として勝手なことを喋りまくり、白陵寮に伝わる珍歌珍芸の披露。

最後に「商神」を歌う時の気持は皆同じ、それは「水泳部に入つてよかつた」という事以外に全く感激に涙がこぼれそうになる。

コンバが済むと辞のまわつた河童連は、ネオンの海を泳ぎまわる。

財布の大きそうな上級生は、早急にマークされ詰酩コース、味寛コース、ムード派コース、観劇（又は感激）コース：：と散り行くその後姿は、ブルでの「鬼のお兄さん」とは思えぬ、「頼

もしく、優しいお兄様」に見えるのである。

この姫路合宿も今は過去のものとなり、神大水泳部の趣を異にした一つの合宿がこのまゝ無くなるのは、寂しい事である。

開放感に満ちたブルも最後のシーズンを迎えて張切つている様だし、人知れず練習を見守る乙女の瞳にも一層の輝きが：。

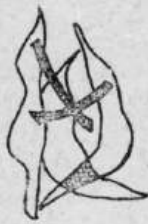
八百米

樋口周平

水泳部に入つて一年が過ぎた。この一年間に、練習中何十回となく、八百米という距離を泳いだし、試合でも数度泳いだ。（いや、正確には「泳がせられた。」である。）しかし、自分は、どうしても八百米という距離が好きになれない。いやでたまらないのだ。もつとも、初の八百米の時は、これまでに経験がなかつた為、「好き」も「嫌い」もなかつた。だから、この「嫌い」という感情は、二度目以後になんとなく生じ、そしてなんとなく現在の様な確固たるものとなつてしまつた。何故「いや」なのか、はつきりした理由は、自分にもよくわからない。が、多分、八百米という距離を泳ぐに要する時間の間、一人で、ブルの底とブー

ルサイドもしくは空を交互に見つめ、それと同時に、何の役にも
たちそうにない、まとまりのない、つまらない事を何か考えねば
ならない事が、自分はいやな為だろう。自分にとつて八百米を泳
ぐに要する時間(約十三分間だが)は、中途半端な時間で、無我
夢中で泳ぐには長がすぎるし、じつくりとまとまつた事を考えて
泳ぐには短かすぎる。(もつとも、泳いでいるので、たいした事
も考えないが)それかといつて何も考えず、放心した様な状態で、
底と空ばかり見ているわけにはゆくまい。やはり何かを考えねば
ならない。一体何を考えれば良いのか? 「泳法を考える」とい
う者がいたが、自分にはそんな考えは三分ともたない。すぐあき
てしまうのだ。そこで自分は次から次へと、考えるところに
あきがこず、しかも、泳いでいることにも退屈を感じさせない事
を、何か考えねばならない。身体の筋肉がすべて疲れきつても、
ゴールに着くまで、何か考えねばならないのだ。それがいやなの
だ。

あと三年間、どうしても好きになれそうにないので、せいせい
色々な事を考えたいと思つている。



なくて七くせ

匿名

人間それぞれ色々な癖を持つているものです。そこで水泳部員
の特筆に値する癖を見聞している範囲であげてみたいと思います。

まず、最上級生から……。最もワイセツなのはBさんのプー
ルから上つた時、パンツのヒモをゆるめると、フロの中であそこ
をギユツとしぼること。またBさん(適当に区別して下さい)の
フロの中でアカおとし……。こういうことは、癖とは言えない
までも悪癖とは言えるでしょう。やめて欲しいもの「……しぼり」
と「アカオトシ」とは全部員(もちろん例外あり)の声。それか
ら、全く型破りでユーモラスであつたのは、Xさんの「ホホッ」
という感嘆詞。ダンス。パーティと聞くと「ホホッ」で喜びを表
わし、プーリングに飛び込むと「ホホッ」で冷たさを表現する。随分
と便利な、また二人のBさんのと比べると人畜無害な癖を持つて
おられました。最近、部員間でニセモノが横行し、ホンモノ
を聞くチャンスに恵まれないことは残念です。心の底から出た
「ホホッ」でなければ、あかんというのは当のXさんの弁。セリ
フの癖を続けてあげると、他人の手足が体にふれたり、何事か起
ると「コラツコラツ」というTさん。噂によると「コラツもつと

さわれ」とか「もつとやれ」と続くのだそうです。A君の「なあも……」彼の田舎の方言だそうです。まだニュアンスはよくわかりません。Y君の「なんのなんの……」もXさんのと同じく童宝なやつです。ベストが出ると「なんのなんのこれ位のタイム……」悪くても「なんのなんの気にすることはない」という風にならまく使われていました。しかし、これもホンモノは聞けなくなりました。セリフで一番恐かったのはなんと言つても、今は卒業された方の「ナニシトンドウ!!」これを聞く度にどつかがちぢみ上つたものでした。これだけは誰のものかまだ真犯人があがつていませんが、放送を特技としている人もあるようです。Tさんが犯人をさかんにでつちあげるのが怪しいゾ……というのが大多数の説です。いつかの日誌には、犯人は、「サイナラ!!」と言つて、一発かまして、ロツカーを去るのだそうです。フロの中での三悪と言えば、「放……しほり、あかおとし」と言えましょう。

いくつか癖をあげてみましたが、有害な癖は、一向にすたれる様子を見せず、人畜無害な愛すべき癖が亡びる傾向にあるのは好ましくないとします。文中、全て仮名ですが、無礼おゆるし下さい。



楽しき(?)バツク

B 14 木下雅浩

昨年の二次合宿までフリーをやっていた。四〇〇一分二〇秒八〇〇一十三分十五秒を出し、次の鴨島合宿で六分、十三分を切らんものと意気込んでいたら「木下お前バツクにかわれ」はショックであつた。それからフリーに未練を残しながら、ずつと空を向いて泳いできました。やれ頭を上げての腰が沈むのと、やかましく、しかし親切にコーチしてくれました。そのお蔭で最初嫌でならなかつたバツクも、タイムが少しずつでも上がると、僕も人の子、うれしくなるもので、今では、上向いて泳ぐのもなかなか乙なものだと思ふようになった。この間のレースで一〇〇一分二十六秒、二〇〇一分九秒のベストがでた。バツクとしてはまだまだもの足りない記録だが、自分ではなかなかいけるぞと氣をよくしている。ベストが出ると欲が出るもので、今度は〇〇秒だして見せると勇んで(?)練習に行くようになったのは、我ながら立派。目標はいくら大きく持つても、誰もけちつける権利はない。僕の目標は井上さんの記録を破ることである。

「一年の頃」

T一四〇〇七 姫路水泳部 日 野（二年）

何事にせよ、この世にあるもの総て、スルメイカの様なもので
どれをとつてみてもカム程にシリシリと味の出るものである。
入部の動機はいたつて単純。ただ泳ぎが好き、これだけである。
何事につけてもだが、水泳についても深く考えてみる程思慮深い
男ではなかつたから「入れよ」なんて言われるともう何かつか
んだつもりでひよいと入つてしまつた。完泳の爲の練習の時代を
経て泳法研究にまでなるとその恐しさがシリシリ出て来る。手の
格好、口の上げかた一つで変つて来るからおそろしい。実に微妙
で仲々つかめぬものである。味はこのあたりから出て来る。そし
てその味が肉体的な苦しみからしぼり出されて来る精神的な味に
までなつて来る時が本当に水泳から離れられなくなる時ではある
まいか。僕にとつて一番の出来事は、何といつても、勇氣という
事の眼界を一段生命線まで（そう考えたくなる時があつた）きり
つめたという事である。元来最も信頼すべき勇氣とは目前の危険、
重大さ、苦しみ等の大きさを正しく測定する所から生れるもので
ある。少しも恐怖を知らぬ人間は臆病者よりも実に手のつけられ
ぬ危険な同僚だ。五〇mをヒューヒュー言いながらベタベタ泳ぐ軟弱

漢に「三千m行け」と言われた時、正しく事の重大さを測定して
一体「ハイそれでは」と泳げるだろうか。水から上つてはき氣に
おそれ、頭がガンガンする時の二本目の何とこわい事か。こん
な時はじめて勇氣という事の本当の意をつかむことが出来る時で
はあるまいか。しみつたれてはいけない。勇氣とは最早感情では
なく、自分にとつて役に立つ物、生死にかかわるとたんばでいつ
でも手にもつてゐる道具なのである。この勇氣こそがさらに調志
情熱、忍耐の域にまで拡げられるのである。飛び込むのは先輩方
の恐さと水のおそろしさを比較してではなく、まさにこの勇氣の
いたらしめるものでなくてはならない。その上にこそ鈴木先輩の
金言をかりれば「水泳は自己鍛練の手段としてでなく目的そのも
のに高められ、大学生活に於ける毎日を誇りと勇氣を持つて生き
て行くためのバックボーン」となる時が来るのである。一年の頃
の思い出である。二年目がはじまる。志してがんばるつもりだ。

水泳について

手 嶋 忠 之

スポーツの中で人間の体に一番合つたものと云えば、水泳の右

に出るものはなからう。陸上競技等は足だけが発達しすぎて、よく陸上競技選手にみるように、ギスギスの体になつてしまふ。又脱腸・関節炎・神経痛になりやすいという話もきく。他の陸上でスポーツも体の一つ所を使いすぎるきらいがある。そして陸上競技選手がかかるような病気になるおそれがある。その点水泳は全身運動であつて、一つ所を過激に使うようなことはなく、陸上のスポーツでかかるような病気になることはない。これだけからみても水泳のよさが分る。又手軽さの点でも、水さえあればどこでもやれるという長所がある。

人間の一生を観ると、いかに人間が水に關係深いものであるかが分る。まず母胎の中では羊水につかつている。これは人間が水中生物から発達したことを示している。だから人間は今でも密度がほとんど一であつて、水の中を自由に泳げるように出来ている。産まれた時には産湯に入る。産まれた後は風呂につかる。日本人は世界でも一番よく風呂に入る國民だそうである。あの風呂に入つた時の氣持のよさは何ともいえないものである。最後に、死んで行く人に末期の水を含ませてやるが、これも何か人間と水との關係がありそうである。この様に非常に水と關係の深い人間が水の中に入らぬというのが不思議である。

水を恐れるというのはどういうことであらうか。
浄水装置の備わつてないプールで二月も泳ぐと、特に夏場は十

センチ米底が見えぬようになる位水が汚れる。しかしまことに栄養分に富んでいる。まず人間の汗とアカ、それに藻、ホコリ、木の葉、虫そしてその死骸、草、ドロ、種々の菌、その他いろんな物が浮んでいる。泳いでいる時は無我夢中なものだから、ビールを飲むようにガブガブ飲んで、後から思うとゾツとする。時には胃ではなくつて肺の中に入ることもあるが、よくあれで病氣にならぬものだと不思議である。

医学の発達とともに、薬品やビタミン類が数多く作り出されるが、はたしてあれ全部が病氣にきくのだらうか。きいたとしても何らかの副作用を起すにちがいない。僕は健康保持薬としてこのプールの水がいいのではないかと思うことがある。僕はハレモノが出来ると、すぐ睡をつける。これはオフロに子供の時に教わつたものだが本当によくきく、現代のように文明が発達すると、それに反抗して原始的にならうとするのは僕だけでなからう。

水泳をやる者に悩みの一つとして耳の病氣がある。僕も合宿の度に一度は耳が痛くなる。神様は水が入らぬように耳の中に毛を生やして下さつてゐる。水の中でも耳の故障が起らないようになつてゐる。ところが耳に水の入らぬようにと耳の中にいるんなセソをつめるものだから耳の穴が大きくなり毛が寝てしまつて、そのセンがとれたりすると返つて水が入りやすくなるのである。又耳の中にナンコウ等をつけるのは一番バカけてゐるのである。丸

山さんがいわれたように耳をいじらぬのが一番いいのである。

僕は昨年一年を通じてみて、人間の体力は夏をピークとして一年を周期とするのではないかと思うようになった。一日の体力をみても同じことはいえる。冬の間陸上トレーニングで体力を貯え、五月の始めに水に入る。そして五月六月と次第に泳ぎ込んで、馬力、体力の最高が七月の中ば頃になる。だから三次合宿にはほとんど体力は残っておらずタイムのレベルがグツト下がる。これは僕だけではないと思うのだが、水泳が盛んになるにつれて次第に試合数が増えそれにつれて試合の期間が広がる。そのためには体力の最高点を長くしなければならぬ。しかしこれは限られているものなのだから数でこなさなければならぬ。ところがこちら姫路では部員が一人。二人とやめていくので何か不安が感じられる。

水泳と私

15 久保 佑四郎

四月から一ヶ月間、即ち五月二十日頃までプレストをやつていたのであるが、あまりに伸びないので、ついに前田先輩の忠告もあつて先週から自由型に転向した。

現在呼吸の不自然さからくる苦しさとビートのスタミナ不足に苦しんでいる次第である。体力的にも恵まれている方じやないがこれは練習量によつて絶対克服出来るものと確信している。ファイ

トを燃やし、一にも二にも練習によつてのみ向上あるものと思う。金曜日が都合で練習出来ないので日曜の自由練習にも極力参加して一日も早く皆のレベルに追いつき、追い越すことを願っている。タイムの更新の中に喜びを見出し、練習にはげむことである。

かくなる私は速く南国の夢の島天草の出身である。海岸まで目と鼻の先に育つたので、小さい頃から水(否海水)に親しんで来たが、全くの遊泳に過ぎず魚を追つたり、タコの尻にホホを吸いつけられたりしながら泳いだので、全く競泳というものには関心がなかつた。

それが如何なる因縁でこの水泳部に入ったかと言えば全く偶然のことから水泳部の激励を受けて目度くこの学校に入ったので、又何となくゲンが良い気がして入った次第である。

しかしこの四年間ぜひ続けてゆきたいと決意する次第である。

水泳部に入部して

T 15 福井健一

神戸大学へ入学して以来早くも二ヶ月に達している。そして私が水泳部に入部してからも一ヶ月半程過ぎた。何事も心一つでやれるものであのはげしい練習にもついてゆけるようになり水泳部の寮囲気にもどうやら慣れそめて来た。そして今や寮生活を

除けばあの受験地獄においてよりもかえつて味けないと思われような大学生活を水泳が活気づけるようになってきた。入部した当時は水泳は最高に自己満足を味わせてくれるスポーツだと思つた。その速い遅いにかかわらずとにかく自己の最善を尽した後の気分は何とも言えぬ良いものであつた。おそらく他のどの運動部でもこれとはつきりは味わえないのではなからうかと思つた。しかし近頃最善を尽したにもかかわらずタイムが伸び悩んで来ると自己満足どころか自己不満をきたしはじめて来た。誰かが言つていたように自己の限界を知るといふ事は大切な事であると同時に恐ろしい事でこれが自分の限界かと思うと全くうんざりせざるを得なかつた。しかしそれは又誰しもがその差はあれども必ずぶつかる壁として誰しもがのり越えようとしている壁には違いない。そしてそれをのり越える事に本当に人生の意義があり水泳部に入

部した価値があるのではなからうか。そう思うとしぼんでいる心が又ふくらんでよしやろうという気になつて来る。又それが水泳部をやめられない理由の一つでもある。とにかく一度選んだ道だから弱音をはかすについて行きたいと思つている。現在水泳部の寮囲気は非常に良く練習も苦しい反面楽しくもある。かの姫路分校で有名な三人トリオの一人として二度と来ぬ青春を大いに頑張りたい。

詩

弥生の三日

遙かに望む六甲台

胸に満々是れ春の風

数学出来ず

吾、何の顔あつて父母に見えん

嗚呼、再び六甲に上ること無しか

E 15 安東賢次

弥生十六日午後五時

受取りぬ祝電

吾狂喜し、母は眼に瞬時の涙

身辺俄かにあわだたし片田舎

作詩者履歴

・S 19。12。6 満州大連にて生る

・終戦により、南国は九州、豊後曰杵五万石の城下町に引揚ぐ

・S 38。2。25 天下の名門県立臼杵高校卒

・S 38。4。11 全天下の名門 神戸大学経済学部入学

・S 38。4月中旬 姫路にて水泳部入部、平泳

・目下楽しみつゝ練習

努力ある時 未来のホープ

妥協ある時 未来の敗者

申し遅れたが、マイネーム・イズ

安東賢次

略称 あんけん

水泳部入部雑感

T 15 橋田健二

一ヶ月前には水泳部のフアイトある水泳を横目で眺めていました。時々プール近くに行つてはその練習風景を見ていました。それが五月の終りには水泳部員として泳いでいたのでした。入部したのが五月十八日で他の部員諸君とは約一ヶ月間の溝があるわけですが負けずに頑張ろうと思つています。入部の動機といえば体力の養成と部屋に同市出身の日野・福井両部員がいるからでもあった。とに角一番安上りで体力増強にもつてこいの運動として水泳を選んだのです。第一印象といえは部員一同家庭的寡聞気で団結してやつていることです。練習と平常の時とは実にはつきり區別されていて練習時は厳しくしかもみんなユーモアがありぞういつた所に感心しました。水泳部では人と協力しながら体力の向上と記録の向上と共に人間形成ができるということが自分ではつきり分つてこれからも水泳部で大いに張切るつもりです。時々先輩が練習の指導に来て下さつていろいろと指導をしていただいて練習するにも精が出ます。前に指導に来ていただいた丸山さんに「お前はなかなか筋がある。頑張つたら強くなるぞ。」と言われた時には内心うれしくなつたものです。現在の自分のタイム(プ

レスト)はもちろんお話になりませんがこれからの水泳シーズンにかけてはタイムもよくなることと思つて励んでいる毎日です。現在いるのは白陵寮四寮六室。この部屋には前に述べたように日野・福井の両部員がいて三人トリオを組んで頑張つています。これから諸先輩方の御指導をお願い致します。

四月二十八日

凌泳会総会

権田 興

今年度の水泳部の練習方針では火曜日が練習休みの代りに、日曜は練習有りと的事で、総会の当日も午前十時より競泳の猛トレーニングが始まつた。十二時に練習が終つた頃から震行きがあやしくなり、総会の始まる午後一時頃からは雨がポツポツと降り始め、先輩方々の御出席を待つている我々を心配させた。果せるかな、ポツポツがザーザーに変わり、全くの悪天候となつてしまいました。野田さん、岡見さんの両先輩は途中御用事のため退席され残りました野口部長、中島功、石井義章、竹元忠、窪田信雄の各先輩の列席のうちに総会が始つた。古林先生は前日に東京からお帰りがつておつかれのところ、わざわざ御出席下さいました。

前年度会計報告、プール改修工事案報告のあと、いよいよ問題の凌泳会費値上げの件にうつりました。

会費値上げの主旨は、部員の増加と物価値上りによる水泳部経済のピンチという事で、題案致しました。

中島、石井両先輩からは、会費値上げそのものについては反対はしないが、現在の一口一〇〇〇円から二〇〇〇円に引上げるのは、むりではないか。また、少人数の先輩の集まりで、決議したものが、凌泳会員各位にそのまま承認してもらえらるだろうかという事で、値上げするにしても一口一五〇〇円までという意見でありました。

昨年度は風呂建設資金のために先輩各位に、お世話になり、今年度はまして、また会費値上げという大問題を持ち出し全く、マネジャーと致しまして、冷汗三斗の思いでありました。前記の様に先輩方の御出席も少かつたので決議され得ずして、終りました。中島、石井の両先輩だけで、後日集会を持ち、この案を検討してみましようという事でケリとなりました。

以上の様な次第で、今年度は一応この案は保留される事となり、もう一度来年の総会に十分検討した上で決めたいと思ひます。

先輩各位におかれまして、この問題につき御意見がございましたらマネジャーが集金に参上した際なり通信の御返事の際にお聞かせ下されば幸いに存じます。

また地方在住の先輩には毎年参上もせず、会費を振替にて送つて頂いておりますが今年には出来る限り地方をまわつてみたいと思つております。

マネージャー 横田 記

河童の歩み

(一九六二・五〇六三・六)

〇五月三〇日 姫路合宿

〇五月二十日 大学祭園遊会

〇六月三日 京阪神三大学対抗戦

丸山キャプテンのもとに全員一致団結して戦つたが、エースがいないのがわざわざいして京大に惜敗。だがエントリーの一人を除く全員が得点して優勝は最後の八百米継泳にかけられたがおしくも敗れた。神大の層の厚さを示した一戦でした。

一位京大、二位神大、三位阪大

〇六月二十二と二十四日 関西選手権水球の部 於大阪ブルー
最初の水球の試合であり、この試合にそなえて我水泳部は池田高校との練習試合をつんでいた。第一戦は対伏見高戦で相手の悪らつた反則にもならず、常に紳士らしくファイトと技でもつて問題なく相手を下した。雨降る中の試合で全員寒さでふるえ上つたが、特に水泳部一の寒がり屋と自他ともに認める五さんは顔をひきつらせ、歯をならして寒むがつていた。準決勝の対清泳会(立命館大学)戦では力の差は大きく大敗を喫したが、練習いかんでは勝てる相手との感がした。三位決定戦は対岡山関西高戦で相手は高校生らしいファイトあるきびきびした動きで神大を圧した。特に神戸は山影君(現明大水泳部)の速い泳ぎにのまれた感じで、六甲台ブルーできたえたはずのフォーメーションもばらばらになり大敗した。試合後植中コーチより注意をうけ打倒立命を見ざして再出発をちかい合った。

一位鴨沂高、二位清泳会 三位関西高 四位神戸大

〇七月一日 対市大定期戦（六甲台プール）

第四三回

日本最古の伝統を誇る対抗戦！対大阪市大戦も回を重ねる事、例年通り快晴に恵まれ、多数の先登もみえ、OB戦、オープン戦を交えて、なごやかな雰囲気の下に行われた。

競泳の部では、四百、八百、二百平を除き一位を占め、水球の部に於ても、旧商王者の貫録で相手を寄せつけず両部門で勝利を収めた。（山本記）

(1) 400M混継泳

堤	丸山	武政	夏見
1位 5'21"8			

(2) 400M自由型

荒井	堤	石原
6'02"4	6'00"8	6'04"0
4	3	5

(3) 200M平泳

丸山	窪田	山口
3'06"4	3'07"9	3'20"1
2	4	6

(7) 200M蝶泳

武政	窪田	安茂
3'05"8	3'10"5	3'28"5
1	2	4

(4) 200M背泳

堤	前田	安茂
3'15"7	3'14"3	3'34"6
2	1	5

(8) 800M継泳

武政	石原	荒井	堤
1位 10'50"0			

(5) 100M自由型

武政	夏見	小越
1'09"6	1'11"3	1'13"8

水球

神大	6	—	1	市大
	4	—	0	
	4	—	0	
	4	—	0	
	5	—	0	
19			1	

(6) 800M自由型

荒井	石原	平岡
12'47"6	13'06"6	13'26"3
3	4	5

〇七月三日〜十一日第一次合宿

総勢三十六人。この合宿は梅雨期の終り頃に当り、例年雨が多い事だが、やはり、前半は実中豪雨にたゞられ、惨々たるものだった。時間を無駄なく過すため、競泳班と、ポロ班とに別れて練習。まず、先発の競泳班が、雨の降りしきる中を、眠い眼をこすりながら、朝めしも食わずに、朝もやの曇り立ち込めるプールへと急ぐ。その後、しばらくして、地獄からの響とも思われる競い音に、ポロ班の目が覚める。丸山キャップの手の音だ。

朝メシを済ませて、プールへ行く頃には、競泳班の練習が終つて、ポロ班と交代する。ロング二本にダツシユ、それにマキ足、壁ポール等、苦しくて沈みそうになるポロの練習が始まる。練習が終りに近づくと、朝メシ、昼メシとメシのインターバルを済ませて来た競泳班がやつて来る。私は、幸か不幸か、ポロ班でしたが、競泳班の連中に言わせると、午前は、腹に力が入らなくてだめだし、午後は、腹が一杯でだめ、とてもじやないが、泳げないとコボしてました。

四日目頃から天気も快復し、カンカン照りの太陽の下で、ますます激しい練習が続きました。まず、インターバルが加わり、ポ

ロの練習にも、先輩諸氏の御来場多く、一段と厳しさが加わりました。

さて、夕食は、全員そろつて、生協ホールで食べるのですが、練習時の苦しそうな顔はどこへやら、すばらしい記録と、スピードを誇る者もでて、一日のうちで最も楽しい一時です。その後、ミーティングやら、先輩のお話等があつたり、また、散歩に行くと言つては、六甲ハイツへと操り出す者もいました。總体的に、部員間、特に、御影と姫路一年生相互間の親密さが増し、楽しい合宿でした。が、この後、関西国公立や、伝統の旧三商大戦を控えて、丸山キャップ以下四年生の方々の気迫が大いにこもつた、厳しい合宿でもありました。(小越 記)

〇七月八日 兵庫インカレ 於甲南大プール

競泳会の記録会の感あり。神大は関学、甲南に次いで三位に終る。

〇七月十二日 関西国公立戦 於布施プール

最も夏らしいカットと晴れた日、我々は大学布施プールにおしかけた。一次合宿の成果があらわれ、全員好記録をマーク、大阪市大を全くよせつけず来るべき三商大に明るい見通しが出来たと感ぜられた。

關西國公立戦績

(1) 400m混継泳

堤	丸山	武政	荒井
---	----	----	----

④ 5' 23"6

(2) 400m自由型

石原	樋口	平岡
5' 54"5	6' 30"0	

(3) 100m平泳

丸山	山口
1' 26"8	1' 32"7

⑦

(4) 100m自由型

武政	日野	荒井
1' 09"5	1' 17"6	1' 11"0

⑤

(5) 100m蝶泳

安茂	窪田	小越
1' 22"0	1' 28"8	1' 23"8

(6) 100m背泳

堤	前田
1' 27"6	1' 30"7

(7) 200m継泳

--	--	--	--

⑤ 2' 05"0

(8) 800m自由型

堤	石原	樋口
11' 45"0	12' 39"7	13' 32"5

②

(11) 200m背泳

前田
3' 13"4

⑤

(9) 200m蝶泳

小越	窪田	安茂
3' 23"3	3' 06"9	3' 17"2

⑧

③

⑦

(12) 200m平泳

山口	丸山	西島
3' 22"9	3' 03"1	3' 24"4

③

(10) 200m自由型

武政	荒井	木下
2' 39"3	2' 46"7	3' 07"5

⑥

(13) 800m継泳

武政	荒井	堤	石原
----	----	---	----

②

○七月十三日・十七日

才一次合宿終了後旧三商大戦の水球戦にそなえて水球だけの強化練習と称して引続き学生集会所にとまりこんでのセミ合宿を行った。そのため二次合宿を入れるとほぼ一ヶ月間集会所にとまりっぱなしという結果となった。しかしポロメンは三商大での優勝を信じて練習にはげんだのでありました。

○七月十九日 全国国公立戦 於東京極プール

神大からは十二日の関西国公立戦で三位以内に入った堤さん、窪田さんが出場。そこで横浜国大の部員に一ツ橋の情報を聞いた。

又二次合宿中ポロメンは北野高校で合宿練習中の慶応大チームと練習試合を行った。我がチームはハンド・ツウ・ハンド、ワンバウンドシュート等で善戦したけれども、力の差はいかんともしがたく完敗した。しかし敗れはしたけれども多くを学んだようであった。次いで池田高校での対慶応練習試合では接戦の末敗れはしたが、三商大水球の部での優勝に確信を得た。又二十五日には動きを研究するため大阪プールで開催中の全日本水球の部を見学に行き、得る所が多かった。又我々は関西高の成長に驚きの目を見張ったのであった。我々でもやればやれるとの感を強くした。

○七月十八日・二十六日才二次合宿

二次合宿の特色は、いつもながら三商大戦に対する緊張と連続した好天気と、きれいなプールの水によるその逆の感じ（解放感とても言いまししょうか・・・）でしょう。三宮へ出かける回数が一次より二次合宿です。二次合宿の方が一次より楽しい、これには誰もが賛成するはずです。僕自身のことを言わせてもらおうならば、去年の二次合宿は芽が出た時でありました。さて日誌をくってみますと、七月十九日に始まり、例年の二次合宿とは異なり、一年生の大部分が参加し、非常に活気にあふれました。

初日は、樋口、日野、木下、平岡、鈴木（さ）、前田、丸山

(じ)、手嶋、中畑がベストを出しています。その理由を手嶋が次のように記しています。「天気はあまり良くなかったが（くもり時々はれ）・・・一次合宿のことを思うと我慢できる・・・。それに水がキレイになって、コースのタイルがみえる。」更に手嶋は、四〇〇に六分台が大丈夫なことを確めて喜んでいました。又初日はカップのようなカエルのようなビニールのおもちやがプールに浮んでいた日でもありました。胴体に「カップ連ガンバレ」と書かれた可愛らしいプレゼントです。

二日目、午前中もっていた空が、午後には快晴になりました。水温二十七度。藤岡さん、平岡さんの卒論のために脈膊数の検査が始まった日です。そのため二〇〇インターバルを六本、検査を

うけぬものは一二〇〇、更にビートを四〇〇、ポロのランパス。これが午前中です。午後はポロメンが池田高との試合に出かけました。日野のこの日の日誌によれば、「ポロで先聲が殆ど居なくなつたので気持がやわらいだせいか、おもしろかつたし、ベストも出た。」日野、手嶋、矢野、丸山（J）がベストを出しています。八〇〇で四〇〇のラップに制限が付けられ、オーバーしたものは同じタイムで、四〇〇をリバイバル、切れないものは更にリバイバル。インターバルで一〇〇を三本、五〇を六本。ポロの方は才一試合 一四―一、一四―九で、神大が勝っています。

三日目、快晴、水温二十八度。二〇〇インターバル七本、あるいは一二〇〇、ビート、マークつきシュート、フォーメイション。シュートの度に昨年と同じく完全優勝を目ざしました。

四日目、快晴、プールサイドのコンクリートの太陽の反射が、いよいよまぶしくなり、飛び込み台の頂上は歩くのもあつい程です。タオル、パンツも干せばすぐ乾き、タオルがいつでもジットリと濡れ、カビが生えた一次の気持悪さが十日前のこととは思えません。四日目ともなるとゆとりが出てくるためか、夕食と消燈時間の間が有効に利用されます。三宮へ足を伸ばし、やけにアベックの多いことから今日が土曜だと気付いたり、阪急六甲へ降り甘い物を買ったり、ベンガルにたむろします。しかし、庄巻は六甲ハイツの散歩ではないでしょうか。百万ドルの夜景、三宮の赤

い灯青い灯、堺、岸和田へのびる明りの線、船の明り、一次合宿では味えぬ楽しみです。ベンガルで買ったアイスクリームをなめながら下界を見おろします。あの有名なマンホールに落ち込むのは、ここ二年程聞いていません。六甲ハイツの楽しみは実は識者によると、もう一つあるそうですが、僕は詳しいことは全く知りません。そこである消息筋から聞いたことを受け売りします。

この現象は最近殆んど見られない。その理由は、バトカーとチンピラが横行しだしたことである。しかし、財力に乏しい、あるいは野趣を好むアベックは、そのスキをねらう。更にそのスキをねらってそのシーンを目撃せんとするのが河童である。黒いトレシャツ、トレパンを余計に持っているのは、その際の紛装とみてさしつかえない。河童連中には、目撃したため、その白っぽいユニホームをぬぎ、裸で潜行したものも居る。その他にエピソードを治うならば……。

その一、曇みにかくれて待っているのだが少しも始めてくれな

(焦燥型)

い。手、足、顔は紋にさされるし、しびれは切れるし……

(落胆型)

その二、下界のネオンサインを背景に二人の影が見える。それと近づくと男同志であった……

(全治一週間型)

その四、バトカーに捕まる・・・(泣くにも泣けぬ型)

その五、コトが終るまで遠くて待ち、終了後、現場へ急行、いろいろ探策する。(警察犬型)・・・消息通による話は以上です。

とにかく二次合宿は、一次合宿以上のいろんを楽しみを持っています。初日の日誌に鈴木さんが書いておられるように「合宿の醍醐味は二次合宿に求められると思う」のです。

(丸山 記)

旧三商大戦

七月二十余日、数日後に神大水泳部最大の試合、旧三商大戦を控えてハードトレーニングの聲が今日も六甲台のプールにこだまする。ラスト・・・シメタイコウゼ・・・

七月二十七日 午前八時、三宮を後に一路東京へ。目ざすは一橋小平プール。明日ハ東京ニ出テユクカラハ、ナニガナンデモ勝タネバナラヌ・・・今日ばかりはこの歌も、しみじみと胸によせてくる。

七月二十八日 雨風激し。プールサイドの老木が強風にたわみ、おい茂った葉がザワザワと鳴りしきる。ここ一橋小平プールにて我が神大チームは午後より軽い練習を行っている。

於中川旅館 夜半、四年生首脳陣は必勝の秘作をねってつき合せ顔もいさゝか緊張気味。当夜熟すい。

七月二十九日 昨日あれほど吹きまわった風、降りまわった雨も今日この日にはウソの如く静まり、静かにすんだエメラルド色のプールの水に照り輝く真夏の陽光がまぶしい。

先ずは競泳四百メドレーより始まる。神大勢、各人最善をつくしてがんばるも三位に帰す。前途多難を思わせる他校の充実ぶりである。引続いてのレースも、一橋の健闘、市大の意外な台頭に神大は負け続ける。最後の八百メドレーを待たずして神大は三位決定という惨敗に終わった。各人、ベストタイムを出しつくしての敗北であった。

(石原 記)

旧三商大戦戦績

(1) 400m混雑泳

前田	丸山	武政	荒井
5' 12" 7			

③

(2) 400m自由型

石原	埜
5' 37" 9	5' 35" 1

⑤

④

(3) 200m平泳

窪田	丸山
3' 09" 4	2' 59" 0

⑥

②

(4) 100m背泳

前田	小越
1' 28"2	1' 31"0

⑤ ⑥

(6) 800m自由型

埜	石原
11' 45"5	12' 03"4

③ ⑥

(5) 100m自由型

荒井	武政
1' 10"7	1' 11"3

③ ④

(7) 200m蝶泳

武政	窪田
3' 03"0	3' 03"2

① ②

(8) 800m蝶泳

石原	夏見	小越	平岡
10' 44"4			

②

○七月二十九日 田三商大戦 (於一橋小平プール)

昼食後、最後のチャンスの水球の部が始まった。競泳で三位に落ちた今となっては、昨年に続いて水球の楯だけは神戸に持って帰らねばならない。今日のこの戦いのために、我々は池田高校、産応大学等と練習試合を重ねてきたのだ。HISAKAWA T. D. R. H. / F. H. /

ゴールキーパー鈴木(剛)の七名、必勝の一念をもって水にとびこむ。
その時の水の感触、一橋とは終始おし気味に試合を進めたが、PW間のコンビの乱れが災いし、辛勝に止った。続いで市大戦は難なく勝ち、水球は昨年に続いて二連勝を成し遂げた。

(鈴木記)

○八月四日、六日 一回関西学生水球リーグ戦

(於北野高校プール)

我々のコーチもやって下さる植中氏のお力で今年から新しく、京大、大阪市大、立命、甲南と神大の五大学によるリーグ戦がおこなわれた。旧三商大戦後、急ぎ帰神したボロ面は息つく暇もなく、この試合に臨み、立命に小差で負けて二位に甘んじた。

(鈴木記)

神大			
11			
2	5	4	0
1	1	1	1
0	1	3	1
5			

京大

神大			
23			
4	6	4	9
1	1	1	1
1	0	1	0
2			

甲南

神大			
2			
0	1	1	0
1	1	1	1
1	0	0	0
1			

一橋

神大			
14			
2	3	4	5
1	1	1	1
1	1	0	1
3			

市大

神	大
13	
3	3 5 2
1	1 1 1
0	0 1 0
1	
大阪市大	

神	大
3	
2	0 0 1
1	1 1 1
1	2 1 1
5	
立命	

○八月八日 対京大水球戦 (於京大吉田分校プール)

試合経験を積んだ神大チームには、スピードを誇る京大チームも敵ではなく、輝く三連勝を遂げて植中杯を保持した。

神	大
12	
3	4 4 1
1	1 1 1
0	0 1 1
2	
京大	

○八月八日～十一日 琵琶湖キャンプ

対京大戦を勝ちとった我々は、その足で持ってきていたテント、ナベ、食糧をかかえて近江舞子へと向った。テントを張り終った頃は、九時近く、湖水に写る月光の美しさに水球の公式戦の全日程を終ったやすらぎを、ポロ面一同心に感じるのだった。

(鈴木(正)記)

○八月十一日 山田先生渡米壮行会 於三の宮 金剛山
出席の方は山田先生、古林先生、それに北村先生をはじめとする多数の先輩の方々でした。

三次合宿 鴨島

宿舎銀月旅館は、駅のすぐ近くにあり、種々の必要を満たす食堂もその近くにあって、環境はなかなか良かった。それでもなお半日の休みの時、はりきって徳島まで行く者も多かったから、徳島にはなにかいいものがあるのだろう。練習は、武政新キャプテンのもとで行われ、新しいシーズンが始まった様だが、各人共ブランクがあったためかタイムは悪いようだ。朝飯前の練習が、一生に幾度とない空腹感を味わせてくれた。

銀月にはキンコちゃん(正しくはきぬ子)さっちゃんなど親切な女中さんがいて、いろいろサービスしてくれた。横田などは互子にツメを切って貰って御満悦だったとか、誰かが云っていたように覚えてる。

踊る阿呆に見る阿呆の有名な阿波踊りを、ある日教えてもらった。タイコは林さん、三味線キンコ。阿呆の踊りというがなかなか難しくしてしんどかった。しかし、あの踊りの足のけり方はブレストに通じると思い、熱心にやった。毎晩消燈になると、しばらくして近所から「アノ子イイコダ、コッチムイテオクレ、キュキュキュ、キュキュキュ」という、おもしろい歌が聞こえて眠る前の一時の興を与えてくれた。

三次合宿はこの様にいろいろ環境のかわったところがいい。

鴨島を思い出すために、所々日誌をひろってみる。

八月二十四日 二日目

六時半起床、七時練習開始、朝飯ぬきで一五〇〇、八〇〇を泳いだ。皆、永い間水を離れているせいだろう、あまりタイムはよくない。ブレスト新人発見のためかどうか、五〇米ブレのレースをやった。練習のあと朝飯を食って、少しおいて又、昼飯をくわされる。メシのインターバルとはよく言ったものだ。

一年フリー 日野

八月二十五日 三日目

全部員に期待されて、楽しさを発見するべく、開拓に乗り出したが、結局この町には何も遊ぶものがなく、ただ泳いでいることが、健康的で、経済的で、しかも快楽を得る最も容易な方法であることが判明したから、ここに言明する。如何にしたら速く泳ぐことができるか研究しているのが一番良い。そもそも遠い四国まで来たのも泳ぐのが目的であったのであるから、泳ぐことの他は何も楽しみがないことが判明した今、我々は心に何のしこりもなく嗚々と泳ぐのがよからう。

四年 林

八月二十六日 四日目

「年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず」という。二年ぶりにこの懐しい鴨島にやって来た。町をぐるっと回って見た所、

駅前新しいパチンコ屋が出来たこと、本通りに水銀燈が出来たこと、「山小屋」が「ホルモン屋」になり、バーが三、四軒できたこと——変わったといえばこんなところではないだろうか。しかし宿屋のメンツが変わったことには驚かされた。前には「エミちゃん」という十九才ながら色気たっぷりの子がいて、皆を悩殺したものであった。今居る絹子ちゃん、加代ちゃんなどは子供々々して尻の青い班点がまだ影をとどめているかのようだ。

エミちゃんは結婚して、既に一人二人、子供が居る……というところから見ると、この次ここへ来るときは絹ちゃんも加代ちゃんも手のとどかないところに行っているであろう。合宿も半を迎えたが、これといった病人が出ていないのは甚幸いである。これも諸君の日頃の「節制」の賜であろう。何とか病人の出ないようにしたいものである。合宿の始めは夕食後も部屋でゴロゴロたむろしていた一年生、二年生も、ようやく鴨島の地理に明るくなり、それぞれ楽しむべきところを見つけたようで、今、部屋にのこっているのは林、北村、俺の三人だけとなった。暇つぶしに「阿波踊りの歌」を絹ちゃんに教えてもらおうとしたが、これが以外に難しく、音痴三人が相手では、さしものベテラン芸者も、かぶとを脱いだようだった。平岡君が血まなこになって探した〇〇〇〇〇、etc. . . もついに発見に致らず、一同を落胆せしめた。

四年 窪田

関西インカレ戦績

(1) 400m個人混泳

武政	小越	窪田
6' 37"0	6' 45"0	6' 39"0

⑥

⑦

(2) 800m自由型

石原	樋口	堤
13' 05"0	13' 11"8	12' 02"2

⑦

(3) 100m平泳

丸山	西島	山口
1' 25"7		

⑥

(4) 200m自由型

日野	丸山	鈴木
2' 54"5		

100m自由型

小越	丸山	日野
1' 08"4	1' 11"5	1' 16"5

⑦

(6) 100m背泳

前田	木下	
1' 29"3		

(8) 400m継泳

堤	石原	小越	武政
4' 34"9			

⑤

四年生にとって水泳部生活最後の、又、現役部員にとってシーズン最後の、それ故にいろいろの感慨を胸に、三次合宿は武政新キャプテンのもとに例年の如く、緊張と、楽しみのうちに成功裡に終わった。

○九月一、二日 関西インカレ 於大阪プール
九校中七位でかろうじて二部に残った。そして八位、九位の、和歌山大、大阪市大は三部に転落した。一点をとるにも苦しい試合であった。

(山口尚記)

(5) 100m蝶泳

安茂	小越	武政
1' 24"2	1' 21"1	1' 17"3

⑥

(7) 400m混継泳

前田	丸山	武政	小越
5' 14"0			

⑥

(9) 200m平泳

山口	西島	丸山
3' 26"9		3' 01"9

⑥

(10) 400m自由型

樋口	石原	堤
6' 16"5	6' 08"8	5' 39"0

⑥

(11) 200m蝶泳

小越	窪田	安茂
	3' 08"0	3' 19"0

⑥

⑨

(12) 200m背泳

前田	木下	
3' 08"6	3' 16"4	

⑤

(13) 800m継泳

武政	小越	堤	石原
10' 39"4			

⑤

つつあるホルモン焼きに舌づつみをうちながら、ビールをのんだのでありました。ホルモン焼きをするか否かについては今春卒業されたHさんの強い要望があったからで、又それを焼く係となった一年生のY君、M君、二年生のI君等はよく焼けたやつをたらふくつまみ食いしていた。それで四年生のH氏より声あり「何をしとるか、オレの所にくるのは生焼けか、真黒こげばかりだ。」

をお御出席の方々は田口部長、岡本、山田、小原、岡田、浅間、竹元の各先輩でした。

○九月十八日十月三日

○九月三日 近畿地区大学体育大会 於西京極プール
この近畿地区大学体育大会はこの試合が最後で、翌年からは近畿地区国立大学大会と名を変えることになり、当然、私立、公立大学は姿を消すこととなった。
試合結果は府大、阪大、京工大に次いだ。

月見の宴がすむと、あとに来るのは？ そりです、水泳部員の苦手とする(？)あのいやないやな試験です。なお御影では学会移転のため試験が早く終わったので、皆が苦しんでいる間に二年生のY君とM君は北海道へ旅行し、途中札幌で本間先輩の御世話になりました。お礼申し上げます。

○九月十六日 月見の宴

例年のごとく六甲台プールサイドに机をならべ電燈をつけて、今シーズンの楽しい、苦しい思い出話をさかせたり、各先輩の話をききながら料理をほほばり、水泳部のトレードマークとなり

○十月七日/三十日

武政新キャプテンのもとに、三年生以下、来年にそなえて水球の強化練習を行なう。アップは個人メドレー、以後、まき足、コーナーがえり、ランパス、ビービーダッシュ、ポロ泳法、その

他いろいろ行なり。途中グラウンド工事のため山の水がプールに流れこみ、毎日水温が一度ずつ下っていく有様でプールコンディションは良くはなかったが、四年生対現役の試合では現役組が四年生組をコテンパーにやっつけ、その高い鼻をへし折りました。

○十一月一日～十二月二十一日 秋期陸上トレーニング

来シーズンの活躍を胸に秘め、ランニンググウェイト、サーキット、静的トレーニングに汗を流した。

○十二月十一日 追出しコンパ 三の宮パウリスタ

某先輩曰く「水泳部もパウリスタでコンパを行うほどになったか」 マチージャーのY君の話によると、ここしか借りられなかったそう。四年生曰く「これで神戸大学水泳部を無事卒業しました・・・」とほんとうに大学を卒業した気分になっていました。

我々は四年生が無事卒業試験に通るように祈るだけです。

コンパ終了後、例のごとく三年生以下は四年生につれられ、それぞれ好みのネオンのもとへと消えていきました。

御出席の方々は古林先生、山田、中村、野田、酒井、岡見、岡田(昌)、岡田(重)、高岡、萩原、竹元、浅間の各先輩、それにパリ大学在学中の山田貴彦さんの手紙でした。

○十二月二十一日 忘年会 於横田宅

二級酒にスキヤキ。飲んで食ったあとは、例年とは違って夜を徹してのマーシャン大会となる。

○二月十二日～三月二日 後期試験

○二月四日～ 自主的トレーニング

○二月二十日 陸上トレーニング開始

春期合宿にそなえてこのトレーニングも、これに今シーズンがかかっている事を思えば思わず力が入るものである。特に新四年生の力の入れようはきわだっていた。

○三月二十五日 卒業式

式後、プールで四年生と最後のミーティングを行った。四年生の皆様御苦勞さまでした。

○四月十一日 入学式

阿部、由佐、高市、宮部、上原、安東、久保の新一年生が入部を希望。

○四月十五日〜二十一日 春期 合宿 (草津国際プール)

総勢二十一人、はじめての室内プールでの合宿とあって皆はりきる。水温二十六度、気温二十八度と絶好のコンディション。六甲台のプールを思うと、まるで天国と地獄である。この合宿はシーズン始め故、ロングを泳ぎこむことが主眼におかれていたため、午前中一〇〇〇、八〇〇、午後一五〇〇、四〇〇、ビート、キャッチング、それからポロと、プール使用時間の五時間をたっぷり泳ぎこんだ。知性の向上のためか、この合宿は聖書もなく、まわり一面田んぼばかりで、射的場、パチンコ屋、飲み屋はもちろん喫茶店もなく、娯楽といえば魚つり、碁、将棋と、ごく健康的なものだった。たゞなんとなくものたりなかったのは色がやけなかつたことである。秘かにこれを喜んでゐるものもいたことは事実である。

奥野、岡田、浅間、萩原、丸山の諸氏が見えられた。

(安茂 記)

○四月二十九日 凌泳会総会

六甲台プール改修の件、凌泳会費値上げの件について、議題が出された。

○五月二日〜五日 姫路合宿

五月中降り続いた雨の事を思えば、雨にたたられる合宿として知られる姫路合宿は以外にも最も雨の少ない日程だった。六甲台の部員はこの合宿に記録の向上という期待をかけているのであるが、未経験者の新入部員にとって人生最大の苦業の一つと思われ。八〇〇米に二十分以上もつかつていては雨が降ればなお更である。特に私のように小雨の時はともかく、ダダッ降りの日は練習は休みだろうなんて考えていた者にとっては。しかし一年後その私も水泳に「小雨決行」なんてない事を熟知させられ昨年になれば楽しくやらせて頂いた。凌泳会播州支部の方が多数指導、激励に来て下さった。六甲勢は調子をあげる樋口に水をあげられ残念がるのだがどうにもならなかつた。合宿後半の五十米インターバル二十本も足をつる等故障者続出し、二十本終えられなかつた者もかなりいた。又制限タイムを割れない者の方が多く、私も例にもれず一回とて割れなかつた。その結果「リリバイバル」もあつたようだ。

さてナイトは例年のように公民館で眠り、消燈まであちこちと忙しい人もおられた。観劇した人の感激的報告もあつた。四日のコンパでは先輩の方々にアルコールを大量に頂き、例年になく参ってしまったたり、前後不覚になつてヤクザ風の男に「オッス」と肩をたたいたりした後無邪気に眠り込む者も数名出た。我々は消燈までの間その結果としての上級生のふところのぬくもりを防止

しようとなつた。

翌日のレースで合宿は閉幕、姫路城の足もとを見て帰った。

(山口幸 記)

○五月十二日 大学祭園遊会

十五日までの大学祭の間は姫路勢を加えての合同練習の形となつたが、十二日の園遊会には昨年に引き続いてカップ亭と称してホルモン焼きをする事にきまつた。まず本格的にやろうというので三年のM君・I君・二年のM君・O君等は味つけを研究しに三の宮のホルモン焼きに出かけていき、やつと聞き出した。調味料はんにくをはじめとする八種類とのことであつた。他の店より少々遅れて店開きしたにもかかわらず、売れる事売れる事、そのにおいは速くにも及び効果満点。となりのおにぎり屋のしぶい顔「めしににおいがしみ込む・・・」。それにしても今年は女性の侵出が目立つた。少くともお客の半分は女性、しかもお嬢さんである。ホルモンを食べながらあるお嬢さん曰く「あんた、これにんにく入っているでしょう。」こちらがうなづく、「あと一人前ちようだい。」女性も愛まりましたねえ。途中足らなくなつて、もう一度仕入れに行つたがこれもまたたくさん売って切れ。あとは二級酒で客をさばいた。ホルモンが少くなつた時、全権を委任されているM君、今まで五〇円だったのにすばやく七〇円に値上げ。仕方なく百円札を出したお客さんに応対

するは、すっかり酔ってしまったI君「すまん兄ちゃん、今つりないねん、百円にまけといてんか。」客のしぶい顔をちらりと見て、となりの果物屋から夏ミカンを一つしっけいして、それを客にわたす。「これでかんべんしてんか」客仕方なくミカンを持って立ち去る。これはまだ良い方で、相手をまげさせて金だけとつた時もうい分あつたように思われる。しかし収入の方はサービスすぎたせいか五千四百円であつた。ただし六甲の収入はわずか五百円でした。

部員一同協力してこの店を成功させたことは、とても有意義なことであつた。

○六月二日 京阪神三大学戦

我々は全力をつくしたけれども力の差はいかんともしがたく、阪大、京大に敗れた。一年生にかきまわされたの感があつたが、全種目を通じて一位を取つた者はなく、前途多難を思わす試合であつた。田口先生に岡見、宇賀、野田、浅間、竹元、萩原、丸山、窪田、藤岡の各先輩が我々の試合を見に来られた。



本年度水泳部行事日程

- | | |
|------------|-------------------|
| 6月2日 | 京阪神3大学戦(大阪プール) |
| 6月16日 | 対京大水球定期戦(六甲台プール) |
| 6月21~23日 | 関西学生水球リーグ戦(大阪プール) |
| 6月28~30日 | 関西選手権水球の部(大阪プール) |
| 7月7日 | 対大阪市大定期戦(六甲台プール) |
| 7月14日 | 兵庫インターカレッジ |
| 7月21日 | 旧三商大戦(大阪プール) |
| 8月7日 | 関西国公立戦(大阪府大プール) |
| 8月14日 | 全国国公立戦(別府プール) |
| 8月31日・9月1日 | 関西インターカレッジ(大阪プール) |
| 9月3・4日 | 近畿地区国立大学戦(京大プール) |
| 9月15日 | 全日本学生水球(神宮プール) |

〔合 宿〕

- | | |
|------------|-------------------|
| 4月15日~21日 | 春期合宿(草津スポーツセンター) |
| 5月2日~5日 | 姫路合宿(姫路分校プール) |
| 7月1日~7月22日 | オ一次・オ二次合宿(六甲台プール) |
| 8月18日~28日 | オ三次合宿 |

神戸大学水泳部員ベスト・タイム表

(6月2日現在)

種目	学年・氏名	50m	100m	200m	400m	800m
フリー	12 武 政	31'0	1'09'3	2'48'2	6'04'0	12'52'0
	鈴 木	32'8	1'13'8	2'47'2	6'08'0	12'56'0
	後 藤	36'2	1'18'3	3'01'0	6'34'0	14'04'5
	山 本	36'0	1'23'0	3'10'2	6'58'8	14'23'4
	堤	32'0	1'10'3	2'48'0	6'08'0	12'51'0
	北 村	40'2	1'28'2	3'30'9	7'34'5	15'47'2
	13 丸 山		1'13'0	3'01'0	6'40'0	14'41'0
	石 原	32'8	1'10'6	2'44'6	6'02'0	12'58'6
	横 田	34'0	1'21'2	3'15'0		
	14 小 越	30'8	1'10'8	2'44'6	5'52'6	12'23'2
	山 口	37'0	1'23'8	3'23'6	7'26'0	15'38'2
	樋 口	33'2	1'13'0	2'41'9	5'57'6	12'36'6
	手 嶋		1'17'0	2'54'8	6'15'6	13'09'7
	日 野		1'16'6	2'55'0	6'17'0	13'37'0
	中 畑					
	伊 藤					
	15 由 佐	37'0	1'24'6	3'21'0	7'13'0	14'59'4
	上 原		1'29'0		8'10'5	17'55'4
	福 井		1'50'6	3'36'0	7'42'0	16'32'0
	久 保		1'45'0	4'05'0	9'05'0	19'11'0
官 部	31'4	1'14'4	3'24'0	7'45'0	16'46'0	
ブレスト	12 安 茂	36'9	1'22'6	3'04'0	6'40'0	13'41'0
	清 水	42'2	1'31'8	3'17'0	7'25'0	15'19'5
	13 山 口	41'0		3'22'0	7'29'0	15'29'0
	14 西 島	43'0	1'32'0	3'16'5	7'06'0	14'48'0

種 目	学名・氏名	50m	100m	200m	400m	800m
ブレスト	14 真喜志	47"0	1'38"4	3'36"0	7'39"0	15'33"0
	15 阿 部	41"2	1'27"2	3'02"8	6'42"0	13'42"0
	安 東		1'40"4	3'45"4	8'01"0	17'09"8
	橋 田		1'48"0	4'10"0	8'42"0	18'41"6
バ ッ ク	13 前 田	42"8	1'31"8	3'13"0	6'45"5	13'47"0
	14 木 下	40"8	1'26"0	3'08"6	6'50"6	13'58"5
	15 高 市	39"6	1'28"4	3'03"6	6'37"0	13'35"0
バタフライ	12 武 政	35"4	1'18"4	3'08"6	7'01"0	14'40"0
	安 茂	38"0	1'30"0	3'14"6	7'29"0	
	15 阿 部	35"5	1'17"0	3'08"0	7'09"0	15'04"0
個人メドレー	12 武 政			3'04"0		
	安 茂			3'18"0		
	14 小 越			3'02"2		
	日 野			3'18"8	7'42"0	
	15 高 市			3'07"0		



昭和三十一年度

凌 泳 会 会 員 名 簿